

# ぷらう59号

発行：TEACCH プログラム研究会

## 会長のつぶやき

これからの TEACCH

TEACCH プログラム研究会 会長 内山 登紀夫

私たちの会の名称は「TEACCH プログラム研究会」だが、ご承知のように全国組織で各地に支部がある。私の知る限り、TEACCH を勉強したり、トレーニングセミナーを実施したりするようなグループはイギリスにもアメリカにもいくつかあるが、全国組織がある国というのは珍しいのではないだろうか。しかも 2000 人ものが参加している組織というのは、TEACCH 関係では、多分、世界最大じゃないかと思う。この会は「研究会の仲間で相互に研修しあう会」だ。自閉症の人の支援は一人でもできないことはない。教師でも療育者でも親であっても、孤軍奮闘している人は多くいるだろう。私自身は TEACCH に出会って、視覚支援や構造化をオズオズと当時勤務していた病院で始めたときに、周囲に TEACCH を知っている専門家は一人もいなかった。どちらかと言うと周囲の目は冷ややかで、ちょっと孤立している雰囲気だった。そういった時に佐々木先生を始め、TEACCH 研に属している「TEACCH の仲間」と出会って、自閉症のことも、自閉症でないことも、さまざまな話をすることで、自分の盲点を指摘されたり、たまには褒められたりして勇気づけられた。当時は TEACCH の情報はほとんどなく、インターネットもやっとメールやパソコン通信(死語)ができるようになったころだったので、とにかく、トレセミに参加した人や佐々木先生が投影してくれるスライド(これも、今は死語に近い)で TEACCH を知るしかなかった。

今は昔、30 年近く前のことだ。昔話はここまで。

クリンガー先生もよく仰っているけど、自閉症を巡る状況は 30 年で大きく変化した。構造化や視覚支援は、もはや TEACCH の手を離れて、多くの自閉症支援の現場で浸透した。TEACCH をきちんと勉強していない支援者でも、現場に入ったときに、すでにそこに視覚支援や構造化があったという経験をしている人は多いだろう。何も、トレセミや講演会に参加したり、仲間と TEACCH を「研究」したりしなくても、自閉症支援はできると考えている人がいても不思議はない。

今は TEACCH に限らず自閉症に関する情報は容易に手に入るようになった。それでも、自閉症は難しい障害であることに変わりはない。特に、現場で自閉症の子どもや大人と接している支援者や親御さんにとっては、色々考えたり悩んだりすることの連続だろう。私は 30 年自閉症に関わってきたけど、毎日解決できない問題に出会っている。それを解決するために、仲間に意見を聞き、文献やセミナーで解決策を探している。なかでも本会の実践研やコラボレーションセミナーの発表はレベルも高く、貴重な勉強の機会になる。会員の実践を聞き、それに対する TEACCH 部の方のコメントや会員の議論を聞いていると、新たな発見や日常臨床へのヒントが得られて、ワクワクすることも少なくない。

TEACCH 研は自閉症支援で困った時に助け合うための場としても機能していきたい。

## 自閉症カンファレンス NIPPON 2018 ポスターセッションに参加して

TEACCH プログラム研究会 常任理事 笠合 竜明

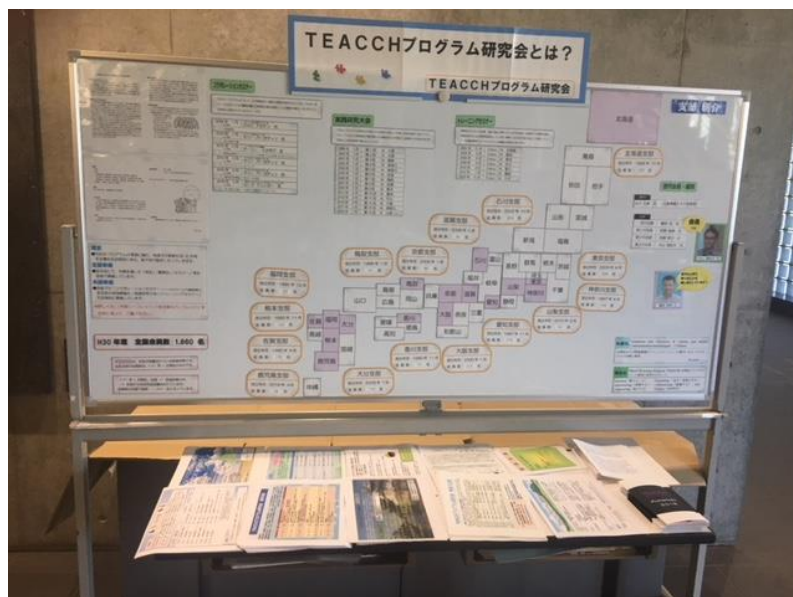
8月25日(土)、26日(日)に早稲田大学にて開催された「自閉症カンファレンス NIPPON 2018」のポスターセッションに TEACCH プログラム研究会として参加してきました。今年は、1000 人以上の参加者で会場は活気に満ちあふれていました。今年から日本自閉症協会との共催となっており、新しい顔ぶれの参加者が目立つ印象でした。そのため、例年よりも本部のリーフレットを手にしていかれる方も多く、地域によっては、パンフレットやチラシの減りも例年よりも早い動き方をしていました。

休憩時間にポスターブースを見に来られている方々に、参加して下さった支部理事の皆様のご協力も得られ、多くの人に啓発できました。この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

そして何より今年が目玉は支部が 15→16 になったことです。TEACCH プログラム研究会地図に鹿児島県が色を塗れたことをポスターで初めて発信できました。「九州は支部が多いですね！」と関心を寄せてくれる方も多かったです。逆に、「東北の方は支部が無いですね」と言っていくられる方や「住んでいる県に支部が無いのです」「どうやったら支部は作れるのでしょうか？」「全ての県にあるわけではないのですね」など、様々な質問や要望がありました。

また、「今ここで入会できますか？」「支部は複数に入会していくのでしょうか？」など、具体的な質問もあり、やはりブース前に我々が立って、その場で単に紙媒体を渡すだけよりも、直接説明をすることが大きな効果を生んでいると改めて感じました。

現在、全国の会員数が減少傾向にあります。今の会員を維持していくための魅力ある会にすることと、これから繋がろう・学ぼうとしてくる新しい方々への受け皿になることを研究会が担っていけるよう、本部としても支部と一緒に考えていきたいと思っています。引き続き、皆様のご協力とご理解をいただければと思います。そして、今回パンフレット等をお忙しい中ご準備いただきました支部の皆様、本当にありがとうございました。



# ノースカロライナ

## 研修旅行レポート

—TEACCH Autism Program へ、ASD 支援をめぐる旅 ①—

TEACCH プログラム研究会 常任理事 諏訪 利明  
熊本支部 今村三奈子

大学に職場を移して以来、毎年 3 月に、大学院生を連れてノースカロライナを訪問しています。今年の訪問は6回目。この間に TEACCH の組織変革があり、ゲーリーからローラへとディレクターの交代があり、TEACCH が変わっていく経過を追いかけるように訪問してきたことだと思います。訪れるたび進化を続けているその勢いに置いてきぼりにならないように、しかし、ちゃんと「変わらないもの」が大事にされていることを確かめながら、自分が学んできた TEACCH を追いかけてきました。

勝手に名付けて「諏訪ツアー！」、今回の訪問には、熊本支部の今村さんも同行しました。というわけで、この原稿と一緒に書くことになった今村さん、一言どうぞ。

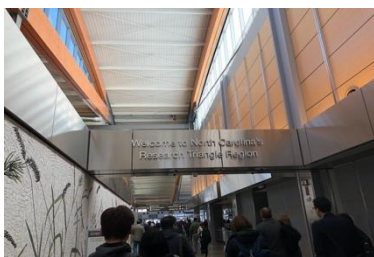
今村です。TEACCH との出会いは約 20 年前。TEACCH の Spirits に感動し、どんどんその魅力に引き込まれていく自分がいました。TEACCH の素晴らしさは、そのプログラムだけに留まらず、エリックショプラー先生、佐々木正美先生、さらに多くの学びを私たちに与えてくださった諸先生方の人間としての精神、その優しさ、愛の深さに尽きると思っていました。TEACCH を学び続けながら、いつかはノースカロライナへ!! という夢を持っていましたが、なんと!! 今回そのチャンスを頂くことができたのです。

出発までの準備もとてもワクワク！でも、初めての事ばかりで心配な事も沢山ありました。初めて会う人達と濃密に関わり、多くを学ぶ事になるこの「諏訪ツアー！」。今までに感じたことのないような感情を体験し、きっとこれからの自分に新しい気付きや目標も見えてくるのだろうな～！と出発前には思っていました。そしてその通りの経験になりました。思う存分、楽しむぞ～!! とばかり、私の「諏訪ツアー！」が始まりました。

再び諏訪に移ります。というわけで、出発空港で参加者が初めて一堂に会するという、まるで集団ブラインドデートのような「諏訪ツアー!!」。今回は 3 月 4 日から 3 月 11 日までの 6 泊 8 日の珍道中になりました。以下、レポートしたいと思います。

### 1 日目：出発、到着の 1 日

午前 11 時に成田空港を発って、ワシントン D.C 経由でノースカロライナ州のラーレイ・ダーラム空港に到着するのは、なんとその日の午後 2 時。映画を 4 本以上、楽々見ることができて、既にうんざりするくらい飛行機に乗っているのに、たった 3 時間しか経過していない、というのは、もちろん時差のせい。下手に考えると頭がこんがらかって眠れなくなるので、ひたすら現地時間に合わせて行動、行動。さらに、頭の中を、「左ハンドルの右側通行」に切り替えて、とりあえずホテルまで運転。なんとか無事に到着できました。



## 2 日目: サポートエンプロイメントについて、ゴリラグループについて

ここからは、まず今村がレポートします。いよいよ TEACCH Center へ。気持ち高らかに「はじめの一步」を仲間たちと共に踏みだすことができました。午前中はマイク・チャップマン先生による「就労支援」についての講義を受けました。数時間の中に、日本で 2 日間の学びくらいの学びの量で頭はすでにパンパン!! でも、内容は素晴らしく「感動!!」そのものでした。それから実際に自閉症の方々が生き生きとお仕事をされている「Extraordinary Ventures」と「SAS」を視察に行きました。

諏訪です。Extraordinary Ventures はその名の通り、地域に必要とされている仕事を開発し、ASD の人たちが働く場所を提供しようという試みで、そこは半地下 1 階から 2 階の建物です。下では大学の学生寮に住む学生向けのランドリーサービス(チャペルヒルはノースカロライナ大学の学生街なので、そのニーズは高いとみた!)や、アロマオイルを使った石鹸づくりや、郵便物の発送などのオフィス仕事に取り組んでいました。視覚的手がかりは当たり前を用意されており、多くの方がのびのびと仕事していました。2 階は貸フロアになっていて、50 名ほどが入れるスペースになっていましたが、この規模の貸館はこの地域に不足しており、ニーズは高いとのことでした。また EV Pet と呼ばれる犬の散歩代行サービスの事務室もありました。就労支援は、まさに ASD の人たちのできる仕事を開発するところから、という発想を目の当たりにしました。仕事に人を合わせるのではなく、まず人ありきで仕事が作られている、というのがとても大切な考え方だということを知ることができました。

再び今村。SAS では、私が日本で学んでいる時に聞いていた内容があり、DVD で見た方々が実際に働かれている!ではありませんか! それまでの世界が一気にリアルに変わり、私はこの半日でノックアウト気味でした…。(そして、皆さんが真剣にジョブコーチの説明を受けている最中、私は NC の自然環境に感動し、巨大な松ぼっくりに惹かれたり、深い森の景色に惹かれたりしてよそ見ばかり…。でも、なんとその時、NC 州の鳥、レッドカーディナルを私だけ! 見ることができたのです!) なんのこっちゃ。



さて再び、諏訪です。午後は、TEACCH のオフィスに戻って、今 TEACCH で行われている療育サービスのひとつであるゴリラグループについての講義と、ビデオを通してグループ療育の様子をライブで観察することになりました。

「ゴリラ」とは「GoriLLA」であって「Growing Living and Learning with Autism」のことです。この日は小学校低学年の ASD の子どもたちが集まっていました。グループでの活動を通して、主目標としているのは「感情調整」と「社会的コミュニケーション」のようで、そこでは「ZONES」というテキストが使われていました(日本版はないと思います)。TEACCH のグループなので、一人ひとりに合わせたスケジュールやワークシステムが使われているのは当然のことなのですが、さらに自分の感情をとらえ、それをコントロールするために ZONES が使用され、リラックスするためのチェアヨガ(椅子に座ったまま姿勢を作り、呼吸に神経を集中することで、気持ちを落ち着ける練習になります)が行われていたり、さまざまな感覚グッズを体験して、自分の気持ちのコントロールをしたりすることが行われていました。

この後 3 日目:FITT, さらに FITT を越えて, 4 日目:診断評価の一日, 5 日目:CLLC 見学, そして T-STEP, Project Search の講義と続き, その講義の終了を待って, そのまま移動。めざせ アルバマーレ, 6 日目:GHA の一日ツアー, ということになるわけですが, なんだか紙面が何枚あっても書ききれないくらいに思えてきました。とりあえずここまでとして, タイトルに①をつけ, 勝手にシリーズ化してますが, よろしいでしょうか? ここからの続きは, この記事が好評だったら, またいつか, ということで。(笑)

というわけで話はうんと飛びますが, 7 日目及び 8 日目。あっという間の帰国です。ノースカロライナ州のシャーロット・ダグラス空港を朝早くに出発。アメリカの出国審査は非常に簡単です。シカゴを経由して, あとは流れに任せて帰るだけ。今回も多くのことを学ぶことができた, その充実感に圧倒されながら帰ってくるというのがいつものなのですが, そのあたり, どうだったでしょうか? 今村さん?

はい, 今村です。諏訪先生, 自発的にシリーズ化するなんて, さすがです! (果たして好評を得ることができるのか? 肝心なことは何もレポートできていない気が… (汗))

とにかく, 毎日が感動で TEACCH の最新の研究内容や具体的な支援を目の当たりにして必死に集中しながら多くを学ぶ事ができました。出発前から帰国まで全てをコーディネートし, 参加者をサポートして下さった諏訪先生の偉大さを感じ, その仲間たちとかけがえのない時間を共に過ごせた事, そして帰国してもなお, 共に学び合っていることに感謝しかありません。TEACCH でご指導頂いた先生方も皆プロフェッショナルであり, 本当に出会う人すべてが優しく素晴らしく, TEACCH のジェネラリストモデルそのものでした。私はこのツアーに参加して, これまで TEACCH を学んでくる事ができた事に幸せを感じながら, 出会ってきた沢山の自閉症の方々や保護者の方々に, 改めて感謝の気持ちで一杯になりました。そして, 進化していく TEACCH をこれからも学び続け, 自分にできる事を実践し続けていきたいと思いながら帰国しました。また, 近い将来, もう一度行きます! NC!

という事で, いつの日か「アルバマーレ」シリーズでまた! (また, 自分も登場するつもり…)

Hi guys, See you then!!

## 事務局より

### 会費納入のお願い

平成31年度の会費の請求書について、届き次第、郵便局決済またはコンビニ決済にてお支払いをお願いいたします。

期限内の納入にご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 平成31年度総会のご案内

日時 平成31年2月11日（月・祝） 12時10分～12時50分  
\*実践研究大会2日目

会場 山梨県立図書館 イベントスペース

みなさんの大事な会費執行状況や本部の活動について報告します。

ぜひご参加ください。

# 第14回 TEACCHプログラム研究会 実践研究大会 in 山梨 2019

## にじいろ

～ひとりひとりの個性を大事にする子育て～

主催：TEACCHプログラム研究会

後援：山梨県、山梨県教育委員会、山梨日日新聞、山梨放送、山梨県自閉症協会

山梨の実践研究大会では、個性豊かな ASD の人たちの特性を理解し、一人ひとりに合った支援や子育てについて学び合う機会となるように企画しました。1 日目のプログラムは一般の方も参加でき、この機会に入会して頂くと 2 日目のプログラムも参加できます。会員の方はもちろん、非会員の方にもお声掛け頂き、多くの方に参加頂ければ幸いです。皆様のご参加お待ちしております。

日時：2019年2月10日(日)～11日(月祝)

場所：山梨県立図書館 イベントスペース

山梨県甲府市北口 2-8-1 (JR 甲府駅北口 徒歩 3 分) 電話:055-255-1040

2/10(日) **公開講座 特別対談** 14:00～16:30 (受付 13:00～)

- ・本田 秀夫 氏 (信州大学医学部子どものこころの発達医療教室 教授)
- ・平野 真理子 氏 (平野卓研チーム監督、平野美宇選手の母)

司会：内山 登紀夫 氏 (大正大学教授、TEACCH プログラム研究会会長)

**懇親会** 17:30～ (場所：ホテル談露館)

2/11(月) **実践報告会** 9:20～12:00 (開場 9:00)

- ・こどもの部 実践報告 3 件  
コメンテーター：諏訪 利明 氏 (川崎医療福祉大学准教授)  
高木 一江 氏 (横浜市中部地域療育センター所長)
- ・おとなの部 実践報告 3 件  
コメンテーター：宇山 秀一 氏 (横浜やまびこの里)

**総会** 12:10～12:50

定員：250名 (先着順)

参加費：一般：3,000円 (2/10のみ)

TEACCHプログラム研究会会員：5,000円 (2/10-11両日)

申込：2019年1月25日(金) 締切

別紙申込書に必要事項ご記入の上、FAX もしくは E メールにてお申込み下さい。

## スケジュール

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
2月10日 (日)						14:00~16:30 特別対談			17:30~19:30 懇親会		
2月11日 (月)	9:20~10:00 おとな① こども①	10:10~10:50 おとな② こども②	11:00~40 おとな③ こども③	11:40~ Q&A こども③ Q&A	12:10~12:50 総会						

## 1日目 2019年2月10日(日)

### 14:00~16:30 特別対談

発達障害のある人たちが「健康で幸せに」暮らすためには、その成長を縦軸でとらえることのできる家族の理解と応援は欠かすことのできないものだと思います。幼児～成人まで幅広い臨床経験を持つ信州大学教授本田秀夫さんと山梨で卓球教室を運営し大勢の子どもたちを指導するかたわら自身も発達障害のあるお子さんを育てている平野真理子さんの対談を通して個性豊かな子どもたちの子育てについて学びます。

本田 秀夫 氏

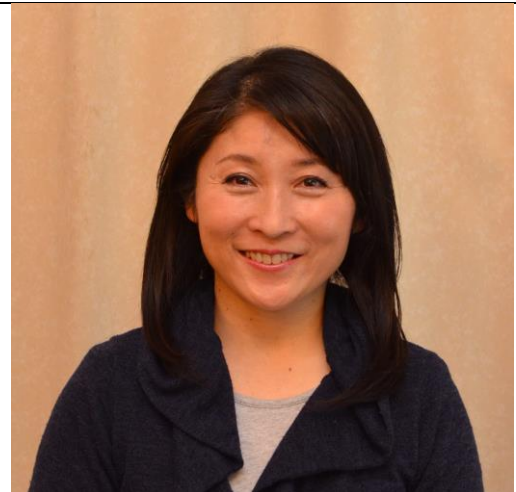


写真：Medical

信州大学医学部  
子どものこころの発達医学教室 教授

特定非営利活動法人ネスト・ジャパン代表理事。精神科医。医学博士。1988年東京大学医学部卒業。同大学附属病院、国立精神・神経センター武蔵病院、横浜市総合リハビリテーションセンター、山梨県立こころの発達総合支援センターなどをへて、2014年から現職。日本自閉症協会理事。主な著書に『自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体』、『自閉症スペクトラムがよくわかる本』などがある。

平野 真理子 氏



平野卓球センター  
平野卓研チーム 監督

静岡県出身。山梨県中央市在住。平野卓球センターの「平野卓研」チーム監督であり、美宇、世和、亜子三姉妹の母。夫とは筑波大学卓球部で共に主将を務めた。小学校・特別支援学校などで約10年間勤務した経験を活かし、下は2歳から上は80代の約80名の老若男女に卓球を教えている。2017年6月に自著『美宇は、みう。夢を育て自立を促す子育て日記』を上梓。

### 17:30~ 懇親会（会員のみ）

1日目のプログラム終了後に、参加者の皆様の相互交流の場としてビュッフェ形式の懇親会を開催致します。ぜひご参加ください（大会参加お申し込み時に合わせてお申し込みください）。

場所：ホテル談露館（山梨県甲府市丸の内1-19-16 電話055-237-1331）

参加費：お一人様5,000円



2日目 2019年2月11日(月・祝)		
	こどもの部 (コメンテーター: 諏訪利明氏、高木一江氏)	おとなの部 (コメンテーター: 宇山秀一氏)
① 9:20 ~ 10:00	就学前の子どもへの TEACCH の導入 ~園全体での取り組み~	TTAP アセスメントに基づいた 作業学習における構造化による指導
	畠田 春香 氏 (児童発達支援センター呉本庄つくし園)  本園では、16年前から TEACCH プログラムを導入しはじめ、現在は園全体で TEACCH プログラムを取り入れており、支援の柱となっています。今回は、園全体で TEACCH プログラムをどのように導入し取り組んでいるか、感覚や行動の問題を持つ子どもへの支援の工夫等、日々の療育の様子について報告したいと思えます。	佐々木 敏幸 氏 (東京港支援学校)  特別支援学校・高等部へ入学後のマミさん(仮名)は、常同行動等の行動面の課題が多いとされ、主体的に学習活動へ参加することが困難でした。高等部2年で実施した TTAP フォーマルアセスメントと中学部時代の評価に基づき、学習時の環境調整や支援ツールの開発、模擬的な実習場面としての作業学習の環境設定を行ないました。マミさんを理解しながら行う支援と、それによる学習活動の変化について報告します。
② 10:10 ~ 10:50	幼児期における地域への 移行アプローチについて	ASDの方が安心して暮らせる 環境づくり
	小林 公平 氏 (PiECE プリスクール)  千葉県野田市の PiECE プリスクール(児童発達支援事業)に通う子どもが幼稚園に移行しました。Structured TEACCHing のアイデアを使って幼稚園に移行したことで、自閉症の学習スタイルの違いを理解してくれる先生が増え、この1つのケースをきっかけに PiECE プリスクールからこの幼稚園への移行事例が増えるようになりました。また、日々連携をしていくことで、幼稚園からの紹介でプリスクールに通い始めたケースもありました。TEACCH の「自閉症へ敬意を払う」ことを参考に幼稚園への信頼、自閉症の魅力伝えていったケースを報告します。	佐野 来瑠実 氏 (グリーンヒルホーム)  本事例は、破損行為がみられる対象者の方に対し、氷山モデルを中心に特性理解を図りました。Nさんが安心して暮らせる環境とは何かを考え、Nさんとともに試行錯誤している毎日です。なかなか思うようにはいかないですが、日々の取り組みについて報告をさせて頂きたいと思えます。
③ 11:00 ~ 11:40	気分変動やカタトニア症状を伴う、 知的な遅れのない青年 A さんの歩み	高機能 ASD の方の地域生活支援 (仮題)
	佐々木 康栄 氏 (よこはま発達クリニック)  A さんは、ユーモアのある鉄道写真や動画を制作する青年です。小学校高学年より抑うつ傾向がみられ、中学校入学後はうつ症状とカタトニアが悪化し、在宅生活となりました。A さんは、その後通信制サポート校へ進学し、彼らしい安定した生活を送ることができています。私たちは、医療面でのサポートだけでなく、言語聴覚士、臨床心理士の多職種が連携をはかりながら、A さん、ご家族と一緒にこれまで共に歩ませて頂きました。これからもその歩みは続きますが、私たちのこれまでの歩みを振り返りたいと思えます。	調整中
11:40 ~ 12:00	質疑応答	質疑応答
12:10 ~ 12:50	TEACCH プログラム研究会 総会	

## 会場案内図

クラウン  
ヒルズ甲府  
会場徒歩 3分

大会会場：  
県立図書館

JR 甲府駅

東横イン  
甲府駅南口2  
会場徒歩 6分

懇親会：  
ホテル談露館  
会場徒歩 10分



大会会場 : 山梨県立図書館 1階 イベントスペース  
山梨県甲府市北口2-8-1 電話 055-255-1040  
JR 甲府駅北口徒歩 3分

懇親会場 : ホテル談露館  
山梨県甲府市丸の内 1-19-16 電話 055-237-1331  
JR 甲府駅南口徒歩 8分

# TEACCH プログラム研究会実践研究大会 in 山梨 2019 参加申込書

【参加申込】 該当箇所に○をつけて下さい

	参加プログラム	対象	参加費
( )	① 2/10 公開講座 特別対談	一般	3,000 円
( )	② 2/10 公開講座 + 2/11 実践報告会	会員	5,000 円
( )	③ 2/10 懇親会	会員	5,000 円

※お支払いについて、①の参加費は当日精算、②③の参加費及び宿泊費は事前振込でお願い致します。

【基本情報】

フリガナ	TEACCH プログラム研究会		
氏名	( ) 非会員	( ) 会員 ( ) 支部	
フリガナ			
住所	( ) 自宅 ( ) 勤務先		
電話		FAX	
		E-mail	
勤務先 (所属先)			

【宿泊申込】 宿泊が必要な方のみ、希望ホテル名を記入、希望部屋タイプに○をつけて下さい

	第一希望ホテル	第二希望ホテル	部屋タイプ
2月 9日 (土)			シングル / ツイン
2月 10日 (日)			シングル / ツイン

※ チェックインツイン (2名1室) で同室希望の方のお名前 ( )

※ 1名参加の方の相部屋希望はお受けできませんので予めご了承下さい

■ 宿泊ホテルと宿泊料金のご案内 (下記料金は1泊・朝食付・サービス料金・消費税込の一人様料金です)

ホテル名	宿泊料金		会場までの 所要時間
	シングル	ツイン	
1 ホテル談露館	16,800 円	14,800 円	徒歩 10 分
2 ホテルクラウンヒルズ甲府	8,500 円	7,500 円	徒歩 3 分
3 東横イン甲府駅南口2	7,500 円	7,000 円	徒歩 6 分

※ 上記金額には弊社事務費、郵送通信費、取扱手数料が含まれております。

※ 宿泊ホテルの喫煙・禁煙希望についてはリクエストベースになりますのでご希望に添えない場合がございます。

※ 宿泊ご希望が多数の場合は先着順となります。在庫がなくなり次第受付終了となります。

※ チェックインは各自ホテルフロントにてお名前をお伝え下さい。

■ お取消し料について

お申し込み後、ご都合により取消しされる場合は、次の取消し料を申し受けます。

懇親会参加費 宿泊ホテル料金	14~8日前	7~2日前	宿泊前日	宿泊当日及び不泊
	20%	30%	50%	100%

株式会社 YBS T&L 旅行事業本部「TEACCH プログラム研究会実践研究大会 in 山梨 2019」係  
〒400-8545 山梨県甲府市北口 2-6-10 電話：055-231-3370 Eメール：okuda@sannichi-ybs.co.jp  
受付時間：平日・土曜 9:00~17:00 休み：日曜・祝日 12月28日~1月3日 担当：奥田・坂田

FAX : 055-231-3377